

幼児に對する時局教育

倉 橋 惣 三

時局教育の方向は二つである。時局への教育は時局による教育である。實は必ずしも二つでなく、相連つて一つである。さいふが正しく、時局によつてこそ時局への教育が徹底せられ得るのであらう。が暫く考への便宜から二つに分ける。

この二つの方向は、幼児に對しても適用せられる。幼児教育も當然時局下の國民教育たる以上、時局への方向に向つて教育せられなければならない。時局下の國民生活は、つまり國體護持、積極國防の精神を實踐に他ならぬ。この意味において、時局への生活方向は、決して非常時局的のものたるに限らない。時局は國民生活の白熱點に他ならない。即ち、時局への教育は白熱状態における國民教育である。幼児の教育も、國民として、いつでもよく強く戦へる國民として指向せられてゐるものでなければならない。こゝは言を俟たぬ。幼児教育者の遠くを見る目は、必ずそこを凝視せられてゐなければならない。

しかし、實際に戦ふ國民たらしめることにおいて、幼児の場合は、たゞへば青年の場合と、おのづから異なる。その目的の距離において、青年教育の如く徹底直面しない。方面は必ず時局へであつても、その實現は青年の如く今日を期しない。之れに比して、時局による教育は、幼児の場合と雖も今日のことである。すべての國民に對して現在であるに等しく、幼児に對しても現在である。今日のこの一刻を忽せに出来ない。眼前のこの一事を看過してはならない。この偉大なる現在をして常に幼児を教育させなければならないのである。時局による教育こそ一般に幼児への徹底性の著しさを思はしめるのも此の爲である。しかも、この徹底によつてこそ、時局への教育方向も正しきを失はないことを得る。幼児に對する時局教育において、先づ時局による教育に細心の用意を強調しようとするのもこの所以である。

幼児教育の環境性は論ずるまでもないが、この時局はさ大きい、強い、そして最も生々しい環境が他にあらうか。國を

擧げて戰つてゐるのである。總力を合せて戰つてゐるのである。勝利のためにのみある日々の生活である。一切が勝つための専心であり、努力であり、大和であり、耐乏でもある。國民のこの時局的積極性を、幼児ながらに、正しく感觸せしめなければならぬ。朝に夕に逢遇するこゝは、傳へられるこゝは、國民精神の突進であり、爆音であり、歡呼であり、憂心である。それらを、幼児ながらに正しく看、誤りなく聴き、後にほんごうに熟するやうに受け取らせなくてはならない。而して、この時局の大環境を、最も眞實に、又幼児に適正に媒ちし傳へるものが幼児教育者である。

幼児に對する時局教育者として、今日の保姆諸君の責任は重大である。それが假りにも謬つたら、國民教育者としてこんな大きな罪はない。謬らずとも、足りなかつたり弱かつたりしたら、その職に背くものである。健康保育、情操保育、又知性保育の平時的教育技能を習熟の上に、時局教育の新しい工夫を練習し、今日の保姆諸君の大きな研究を精勵しでなければならぬ。しかも密に恐れるに、現に幼児が置かれてある家庭環境にしても、社會環境にしても、必ずしも悉く、時局による教育の正しさを力強さを完具してゐるこゝいひ得ない間隙もないでもないのである。勿論それらは時局國民生活の例外であり偶々の過失に他ならない。成人達の不用意な言行に過ぎない。或はまた、成人としては深い時局觀の、ほんの薄い上皮であるに止まるであらう。しかし、それが、純眞なる幼児の心に映ずる結果は、そうした輕さに終らないのである。われらは、卒直の事實として幼児等がそれを反映復唱してゐるのに會ふて慄然するこゝもあるのである。國民教育者たる保姆諸君は、之等のこゝにも備へなければならぬ。その誤謬を除き、その歪曲を訂正してやらなければならぬ。そしてそれを覆ひて餘りある程に、正しい時局の取次ぎに、幼児の目と耳と感情と理性とを包まなければならぬ。

幼児に對する時局による教育のために、その方法も、施設が有效であるこゝは素よりである。しかも、そのために何よりも一番大切なこゝが、幼児教育者自身の最も正しく且つ最深烈強烈なる時局認識も、不斷の時局知識もであるこゝは言を俟たぬ。この點で、對象は幼児であり、その教育の實際も幼兒的であり、その徹底も幼兒的ならざるを得ないが、あなた自身の時局精神、時局觀、時局理解は、國民として最高のものを常に貯へもし、怠らず攝取してゐなければならぬ。

斯くてこそ、幼児に對する時局への教育もおのづからに強く正しく出来るのである。